

平成23年度 事業報告書

社会福祉法人 芙蓉会

法人本部

事業概要報告

法人理念「自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」の下、当法人は108年の歴史と共に地域に愛され、民間社会福祉としての活動と役割を果たすべく、社会福祉支援を要する人々への相談・援助・支援、地域福祉活動、社会貢献等々に重点をおきながら事業を推進いたしました。

これまで発展できたのも創立者渡辺代吉氏の不幸薄命なる児童を救済するために、明治36年に富士育児院を設立したのが始まりであります。

平成23年度は、「富士育児院小観」復刻版の発行をおこないました。発行に至る経緯は、昨年岡山県立大学の井村教授より、明治43年に出版された「富士育児院小観第三号」の存在を知らされました。また、此の富士育児院小観第三号は出版されて丁度百年を迎え、同志社大学図書館の生江文庫に大切に保管されておりました。内容は創立の経緯及び創立以来八年間にわたる運営上の困難克服と地域の皆様のご協力と当時の入所者の事情等を克明に総括したもので現富士市のみならず当時の地域の皆様の福祉に関わる原点として認識できる貴重な資料であると確信し、この度復刻を試みました。



富士育児院小観【復刻版】

基本目標

地域における福祉の発展・充実を担う中核的な組織として、公共的・公益的な事業を県及び関係機関・団体等と連携・協働して推進します。

健全な法人運営や施設経営管理の適正化ならびに職員の処遇向上と人材育成、利用者サービスの質の維持向上に努め地域住民の皆様に対する理解と信頼性を高めて参りました。



理事会



評議員会

児童養護施設 ひまわり園

事業概要報告

平成 23 年度は、児童定員 90 名に対して 79 名でスタートし、年間で 13 名の入所があり、退所は 14 名でした。毎月の平均在籍数は、81.6 名(充足率 90.6%)でした。その他、一時保護 1 名、ショートステイ 7 名を受け入れました。



【七五三のお祝い】

【入所児童内訳】

- ① みどり園から措置変更 3 名
- ② 家庭からの入所 7 名
- ③ 他施設からの措置変更 3 名

家庭からの入所理由としては、身体的虐待およびネグレクトが 5 名、養育困難が 1 名、外国人である実母の不法滞在による拘束が 1 名でした。養育困難のケースは、22 年度にネグレクトを理由に入所して以来ひまわり園に在籍していた幼児が、23 年 12 月に保護者の元へ一時帰省した際に強引に引き取られたケースでした。子どもの生命に危険がないことを児童相談所が確認の上、一旦は家庭引取となりましたが、保護者の育児能力が低く育児困難に陥って 2 月に再入所となりました。

【退所児童内訳】

- ① 家庭引き取り 9 名
 - ・ 幼児 3 名、小学生 4 名、高校進学に合わせた家庭引取 1 名、高等学校不適応による定時制高校編入 1 名
- ② 就職自立 4 名
 - ・ 高校卒業による就職自立 2 名、特別支援学校高等部卒業による就職 1 名、漁業高等学園卒業による就職 1 名
- ③ 措置変更 1 名
 - ・ 情緒障害児短期治療施設 1 名

退所した児童では、家庭引き取りを前提にした高校受験で、本人の希望通りに合格して無事に家庭引き取りになったケースがあった反面、ひまわり園から通っていた公立高校で不適応になり、定時制高校に編入するために家庭引き取りになったケースもありました。就職した児童では、特別支援学校高等部を卒業してみぎわ園でヘルパーとして働くことになった女子児童がおり、アフターケアとして自立支援を継続していくため、ひまわり園の別棟から仕

事に通っております。情緒障害児短期治療施設に措置変更された幼児は、発達障害があり、突発的な行動（暴力や飛び出しなど）が多く、児童相談所の判断により措置変更となったケースでした。

入所児童への支援では、高機能自閉症、愛着障害、反抗挑戦性障害など医師から診断された児童や疑いのある児童の対応や反社会的問題行動で職員が対応に苦慮したケースもありました。生育歴から来る愛着関係の不十分さ、自尊心の低さが影響しており、児童相談所の心理職に協力を得て対応したり、外部研修の事例研究にあげるなどして効果的な対応方法を模索してきました。

特記事項と致しまして、23年3月に県立高校を卒業して看護専門学校に合格した女子児童1名（入所理由：実母からの虐待）が、20歳までの措置延長が認められ、法人の「植松茂子奨学基金」の支援を受けて進学することになったことをご報告いたします。

重要事項報告

1 「被措置児童等虐待防止ガイドライン」に関する調査

23年8月に、静岡県こども家庭課による「被措置児童等虐待防止ガイドライン」に基づく調査がありました。中学生男子複数が3ヶ月もの間、断続的な万引き行為を繰り返していたことが発覚し、その事実関係調査や行動の振り返りを担当職員が中心となり対応しておりました。中高生男子ユニット15名のうち、問題行為のあった児童6名とその事実を知っていた3名が問題としっかり向き合っている環境を確保することと、ユニットの仲間の行動に無関心な状況を打開したいという目的でユニット全体の問題として子どもたちに考えてもらいたいという説明の上で、当該児童9名に対してホールで反省する時間を持つよう指導しました。結果的にその状況がユニット全員への行動制限と受け止められてしまい、通報・調査に至ったようです。9月16日に静岡県こども家庭課及び富士児童相談所の職員から子どもたち全員、担当職員、養育課長、施設長がそれぞれ聞き取り調査を受け、社会福祉審議会児童部会での検討結果として、12月19日に改善対策の実施を求める通知を頂きました。内容としましては「虐待には当たらないが改善が必要」というもので、以下の点において指摘を受け、改善対策を図るよう指導頂きました。

- ①長期間にわたる万引きと物のやりとりの事実を把握できなかった。
- ②児童相談所への報告が行われていなかった。
- ③画一的で児童に誤解を与える対応であった。

このことへの改善対策としてひまわり園から以下のように改善を図る旨の報告を行い、了承されました。

- ①問題発生時には速やかに「状況報告書」を作成し、施設長・上司・児童相談所に報告し、助言を受けた上で個々の状況に合わせた「指導計画書」

を作成する。

- ②従来より実施している「苦情解決箱」「児童会」「意識アンケート」の充実を図り、日常生活においても注意を払い問題発生予防に努める。
- ③施設内で毎月実施している処遇検討会の個別状況を毎月児童相談所に報告する。
- ④日々の確実な情報共有・認識共有に努め、権利擁護の観点に立ち児童相談所の助言を受けながら支援方針を立てる。

2 児童の交通事故に関する報告

平成 23 年度は、入所児童の交通事故が 2 件発生しました。1 件は、小学校 3 年生女子が下校中に乗用車と接触し救急車で病院に搬送された事故でしたが、打撲等の軽傷で済みました。しかし、私立高校 1 年生男子が、1 月 12 日の登校中に遭った交通事故では、本人の乗った自転車は道路横断時に乗用車と衝突し、「外傷性くも膜下出血」「側頭骨骨折」「右鎖骨骨折」という診断を受けました。幸い生命にかかわることはなく、10 日間の入院と 4 日間の自宅療養を経て学校生活に復帰いたしました。その後は定期的な検査を受けながら生活をしています。

施設整備

取得

- | | |
|---|---------------|
| ①屋外時計（エキスパートグループホールディング寄付） | 493, 500 円 |
| ②大型衣類乾燥機 1 台（エキスパートグループホールディング寄付） | 1, 417, 500 円 |
| ③可搬式インバーター発電機 1 台
（社会的養護入所者環境改善事業） | 250, 000 円 |
| ④DVDレコーダ 6 台（昨年度購入の地デジ対応テレビのエコポイントによる購入） | 370, 800 円 |
| ⑤二段ベッド 5 台（富士市社会福祉課からの寄付金配分 150, 000 円活用） | 200, 000 円 |
| ⑥階段転落防止ネット設置（施設機能強化推進費） | 459, 291 円 |

修繕工事

- | | |
|------------------------------|---------------|
| ①外壁タイル一部補修工事（社会福祉施設等災害復旧補助金） | 1, 029, 000 円 |
|------------------------------|---------------|

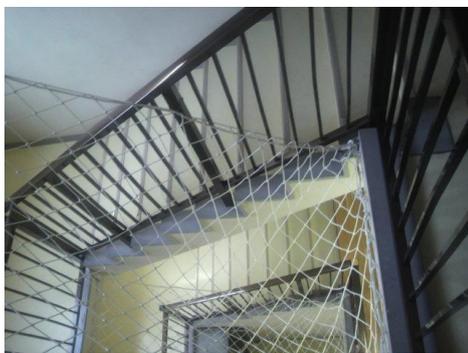
- ② 壁紙等内装補修工事（社会福祉施設等災害復旧補助金） 425, 796 円
- ③ 駐車場通路舗装工事及び側溝清掃 105, 000 円
- ④ 柱状高圧負荷開閉器取替工事 387, 503 円
- ⑤ ユニット玄関耐火ガラス取替工事（さくら・けやき） 472, 500 円
- ⑥ 非常用発電機修理 374, 850 円

廃棄

- ① 大型衣類乾燥機（老朽化に伴う廃棄、買い換え）



【屋外時計】



【階段転落防止ネット】



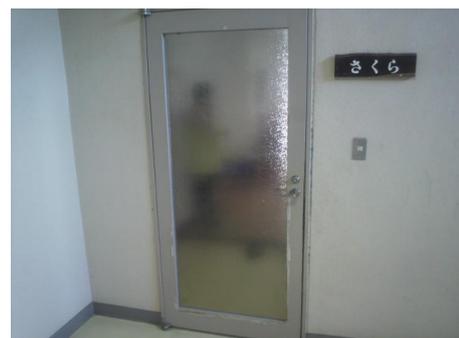
【二段ベッド】



【大型衣類乾燥機】



【可搬式インバーター発電機】



【耐火ガラス】

基本目標 1

家族と離れて生活する子どもたちが、安心して安全に生活できる環境を保障し、権利擁護意識の向上に努めます。(資料4. 5)

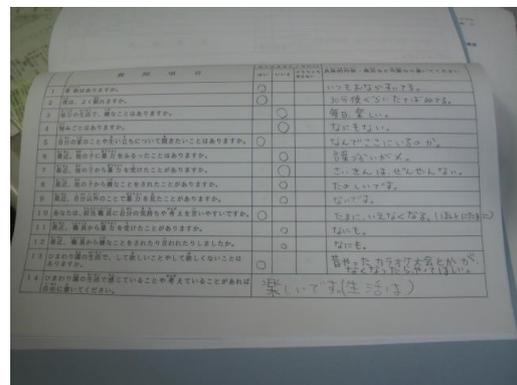
安心・安全な環境の整備として、階段に転落防止ネットを設置しました。また、ヒヤリハット報告を参考にして、平日のふようデイサービスセンター前への児童の立ち入りの時間帯での制限や「飛び出し注意」の標識の設置などを行いました。

自尊心の育みや互いの権利を尊重することを学ぶ「性教育」「セカンドステップ」などの特別なプログラムは、職員が勤務時間外の時間を使わなければなかなか実施が難しい状況ではありましたが、継続的に実施することができました。しかし、「セカンドステップ」は日常への展開が十分ではなく、「性教育」は3回の実施のみと回数が減ってしまい、いずれも24年度への課題となりました。心理対応面では児童相談所の心理職員との連携による面接、ケース検討を実施しました。また、小学生以上には「生活意識アンケート」を実施しました。アンケート結果を養育現場にどのようにフィードバックしていくかが今後の課題となりました。

また、職員に対しては「自主評価」を10月に実施して、施設としての支援内容の見直しや養育に関する提案を集約し、権利擁護意識の向上に努めました。



【セカンドステップ】



【生活意識アンケート】

基本目標 2

生活を営む主役である子どもたちが、日常生活において主体的に考え取り組むことができるように支援します。(資料6. 7)

児童会「ひまわりの種」では、小学生の部は18回開催し、「登下校時の安全」「野菜栽培」を中心に活動しました。また、富士警察、富士市安全協会と共同で通学路の「安全マップ」を作成しました。中高生の部は6回開催して、配膳当番などの日常活動や部活動をしていてアルバイトができない高校生の携帯電話購入希望に関して話合いました。しかし会議の開催回数が少なかったことや自主性・主体性を育むという目標には、いくつかの課題も残りました。夏祭り・クリスマスなどの行事運営では中高生が活躍してくれました。

行事は希望行事や招待行事を含め、大小あわせて53行事を実施しました。ユニットごとにキャンプやバーベキュー、工場見学などを計画したり、参加希望をとって実施した富士登山や雪遊びなども恒例行事となりました。その他、ボランティアさんのご協力を得て実施した行事もありました。

静岡県児童養護施設協議会主催の球技大会では、夏季のソフトボール大会では小学生男子、中高生男子共に準優勝という成績を収め、冬季のサッカー大会では小学生男子が優勝、中高生男子が準優勝でした。



【大地 須津川バーベキュー】



【さくら 黒川キャンプ】



【りんどう 明治製菓工場見学】





【海水浴】



【かえで サイクルスポーツセンター】



【第40回 夏季球技大会】小学生男子・中高生男子 共に準優勝



【富士登山】



【福祉まつり】



【移動動物園慰問】カントリーファーム様



【七五三ボランティア】丸喜衣裳店様
アイボリー美容室様 ひまわり美容室様



【防犯教室】安全協会様 富士商工会様 富士警察様



【餅つきボランティア】ADEKA 労組様



【クリスマス慰問】富士中央ライオンズ様



【クリスマス ページェント礼拝】



【クリスマス ハトバベル演奏】



【第 34 回冬季球技大会】小学生男子優勝・中高生男子準優勝



【卒業・旅立ちを祝う会 集合写真】



【通学路安全マップ】

基本目標3

子どもたちの地域社会活動を支援し、集団の中での個の自立と技能向上を目指します。また地域との関わりを持ち、地域住民としての自覚が育つように支援します。(資料8)

ボーイスカウト活動では18名のメンバーが募金活動やキャンプなど年間13回の活動を実施しました。サッカー少年団活動では2年生以上14名が登録し、富士市のリーグ戦等に6年生の部で出場しました。その他、子ども会活動では、地区ドッジボール大会で活躍し、フリーマーケットでの売り上げはクリスマス献金に捧げるなど心温まる経験ができました。



【芙蓉会フットボールクラブ】



【子ども会お楽しみ会】

基本目標4

社会的自立を目標とする子どもたちの自立支援を実施します。

23年度は先に述べたように、特別支援学校高等部女子児童がヘルパー資格取得を支援し、みぎわ園での就職に繋げることができました。23年度末で措置解除となりましたが、アフターケアの一環としてひまわり園の旧高校生寮での自立訓練を行いながら仕事に通っています。また高校3年生女子は看護専門学校に無事に合格して「植松茂子奨学基金」の援助を受けることとなりました。

基本目標5

家族再統合のための保護者との関係強化と里親との連携を通じて家庭体験の充実を図ります。(資料9. 10)

家族との面会件数は141件で、昨年度(108件)より大幅に増加しました。一時帰省は夏季37名、冬季33名で、昨年度(夏季29名、冬季35名)より若干増加し、家族再統合に向け児童相談所ケースワーカーと協力して家庭訪問も実施しました。しかし、



年間を通して家族との連絡が取れなかった児童が20名おり、児童相談所に家庭訪問や家庭調査を依頼しても連絡がつかないケースもありました。

里親委託では、週末里親・短期里親(夏季・冬季のショートルフラン)を実施しました。里親委託に関しては保護者の承諾が条件となるので、施設側が希望しても利用できないなどの理由で年々減少しており、23年度は夏季4名、冬季5名、週末委託は通年で2名でした。その他、児童相談所からの要請を受け、養育里親認定研修として、4件(8名)の養育里親希望者の研修と実習を実施しました。

基本目標6

子どもの健康に配慮すると共に、環境の整備、防災教育を推進し、安全な生活を支援します。(資料11. 12. 13)

健康への配慮では、日常生活においては食生活を通じて、子どもの希望を取り入れた誕生日リクエストや季節や催事の行事食、月1回の調理実習など栄養士や調理員の協力の下、楽しみながら栄養を取るよう工夫をしました。

医療面では、年間の通院回数は817件でした(22年度は850件)。今年度より嘱託医が土屋医院になりましたが健康診断や各種予防接種(インフルエンザ、子宮頸がん、小児肺炎球菌、ヒブワクチン等)を計画的に実施しました。

また、感染症予防対策では手洗い、除菌、設備の消毒など例年以上に衛生面に配慮したことで施設内感染に関してはある程度成果を得られましたが、インフルエンザが学校で流行すると残念ながら発症を防ぐことはできませんでした(A型4名、B型15名)。



【卒業・旅立ちを祝う会 夕食会】



【食事風景】

基本目標7

職員の処遇技術の向上を目指した研修の充実と主体的取り組みの強化を図ります。また実習生の受入れを実施して児童養護施設の理解を広げ、後進の指導に努力します。(資料14.15)

「権利擁護」「性教育」「発達障害児の対応」など各種テーマの研修に職員が参加し、技能向上に努めると共に、施設内においても臨床心理士や児童相談所の心理スタッフを講師に招いて研修を実施するなど、施設内外において職員の知識、技量の向上に努めました。また、静岡県が主催する研修会では、職員が事例発表や性教育の取り組みの実践発表(優秀賞受賞)を行い、市内においても富士圏域社会福祉施設長会主催の社会福祉に従事する職員の「福祉の仕事」発表で、児童部会を代表してひまわり園の若手保育士が意見発表を行うなど職員が活躍する機会を得ることができました。

その他、静岡県内の児童福祉関係者が集う「児童虐待防止パレード」に参加し社会啓蒙活動に協力しました。

後進指導として、23年度は26名(県内7校、県外5校)の実習生を受け入れました。ひまわり園の職員の内3名が、学生時代にひまわり園で施設実習を経験して、卒業後に保育士として勤務しています。



【県養新任職員研修会】



【児童虐待防止パレード】

ひまわり園 添付資料

- 資料 1 入退所状況
- 資料 2 理由別入退所児童数
- 資料 3 入所児童現況（平成 24 年 3 月 1 日）
- 資料 4 児童処遇について（性教育、セカンドステップ、心理対応）
- 資料 5 心理対応について
- 資料 6 児童会「ひまわりの種」実施状況
- 資料 7 行事の実施状況
- 資料 8 地域社会活動
- 資料 9 家庭支援等の実施状況
- 資料 1 0 幼稚園、学校、地域との連携
- 資料 1 1 児童の健康管理
- 資料 1 2 行事食の献立
- 資料 1 3 防災訓練実施報告
- 資料 1 4 研修報告
- 資料 1 5 実習生受入状況
- 資料 1 6 設備保守・安全点検
- 資料 1 7 事故報告
- 資料 1 8 苦情・要望受付状況

地域小規模児童養護施設ひろみ

事業概要報告

平成 23 年度、「ひろみ」は地域小規模児童養護施設の指定を受け（承認年月日：平成 23 年 4 月 1 日）、本体施設の支援のもと、24 時間体制で入所児童の安全・安心の確保に努めました。

平成 23 年度は、小学生 3 名、中学生 2 名、高校生 1 名の計 6 名（女子）でのスタートとなりました。

ひろみでは地域小規模児童養護施設の特徴を活かし、地域の中での生活体験を基盤に、家庭的な環境の中で、より個別的な関わりを持てるように努めました。

子どもが日常生活において主体的に考え、取り組むことが出来るように、児童会である「キンモクセイの会」と、子どもと職員の話し合いの場である「ひろみ会議」を月 1 回実施してきました。行事についても、この話し合いでの意見をもとに計画、実行致しました。

また地域との関係を大切にすることを心がけました。地域活動への主体的な参加をすると共に、日常の中での地域住民の方々との交流を大切にすることを意識しました。地域の方からはたくさんの野菜やお菓子、衣類などを頂いたり、子ども達とも自然な関わりを持って下さるなど様々な面で支えられて生活をしてきました。逆にひろみの子ども達や職員も近隣の草取りやゴミ出しを手伝ったり、入院された方にお見舞いを贈るなど、地域の一員として生活することを大切にしました。



重要事項報告



平成 23 年度は、中学 3 年生の児童が 1 名おりましたので、ボランティアで通塾させて頂いている、「学習塾のセルモ」さんのご協力を得ながら、学習支援に努めました。以前から本人が第一に希望していた高校への受験は叶いませんでしたが、私立の高校へ合格する

ことが出来ました。

また東日本大震災の影響から節電、節約が叫ばれる中、ひろみにおきましても、電気代やガス代、水道代などの月々の料金の掲示を行ったり、児童会で話し合いを行うなど、節電、節約を意識した生活を送ることが出来ました。

施設設備

取得

- ・ Panasonic ブルーレイ・DVD レコーダー 61,800 円
(エコポイントで購入)



基本目標1

家族と離れて生活する子どもたちが、安心・安全に生活できる環境を保障し、自分を愛し人に思いやりを持って接することができるように支援します。

ひろみの1年間の目標を「思いやりの気持ちをもとう」と定め、子どもたちもそれぞれ個人の努力目標を設定し、その目標に沿った支援に努めました。また建物等、安全上、修繕が必要な箇所については、迅速に対応するよう努めました。

基本目標2

生活を営む主役は子どもであり、日常生活において主体的に考え、取り組むことができるように支援します。(資料2, 3, 4)

月1回の「キンモクセイの会」(児童会)「ひろみ会議」の充実を図り、個々の意思を尊重することに努めました。また行事については子どもの意見を取り入れ、実施致しました。



【花火の行事】



【キンモクセイの会】

基本目標3

子どもたちの地域社会活動を支援し、集団の中での個の自立と技能向上を目指します。また、地域との関わりを持ち、地域住民としての自覚が育つように支援します。(資料5)

日常生活の中で近隣住民との関わりを大切にし、良好な関係作りに努めました。また地域活動(防災訓練、運動会、子ども会、学校行事)等への主体的参加に努めました。

基本目標4

社会的自立を目標とする子どもたちの自立支援を実施します。(資料6)

高校生はアルバイトやボランティアを通して社会的マナー・礼儀等を学ぶ機会を持ち、中学生に対しては高校進学へ向けた支援を行いました。個別に自立支援計画を作成して目標に応じた支援に努めました。また、卒園生に対する相談その他の自立のための支援に対して積極的に関わる努力を致しました。

基本目標5

家族再統合のための保護者との関係強化を図ります。(資料7)

家族との関わりが持てる状況の児童につきましては、児童相談所と連携し、面会を実施するなどの家庭支援を行いました。積極性に欠けるものでありましたので今後の課題であります。

基本目標6

子どもの健康に配慮すると共に、環境の整備、防災教育を推進し、安全な生活を支援します。(資料8, 9)

子どもの健康に配慮し年1回の健康診断、インフルエンザの予防接種を実施しました。防災訓練を月1回実施し、児童ならびに職員の防災意識の向上に努めました。また非常時に必要な物品を確認し、不足している物を揃えました。

基本目標7

職員の処遇技術の向上を目指した研修の充実と主体的取り組みの強化を図ります。また実習生の受入を検討して児童養護施設を理解を広げ、後進の指導に努力します。(資料10)

研修への積極的な参加が出来たとは言えない状況でしたので課題が残りました。また実習生の受け入れに関しては、23年度は実施しませんでした。今後どうしていくか検討が必要です。

恩賜記念みどり園

事業概要報告

平成 23 年度は定員 30 名で事業を実施する事ができました。年度当初から積極的に緊急一時保護や入所依頼を受けて参りましたが、厚生労働省の家庭的養護推進の方針による里親委託児童の増加や、家庭に帰る児童も増加した年度でした。反面、入所してくる児童が少なく、入所率は年平均で 82%に止まりました。



基本目標や実施目標に掲げた、愛着形成の促進による「よりよい関係作り」に関する取り組みは、ユニット制による養育や、小規模グループケアの実施を行い、日中一人の養育者がみる児童数を少しでも減らすという、養育単位の小規模化への課題に取り組むことにより、子ども達の心の安定に努めました。平成 23 年度の 19 名の退所児童中 8 名の児童を家庭への復帰に繋げられ、家庭復帰率は 42.1%でしたが、里親への委託も 21%と一応の結果が得られました。しかし、乳幼児の緊急一時保護施設の役割を果たしている乳児院は、感染症に対する防衛力が弱く、7月にヘルパンギーナ(急性ウイルス性咽頭炎)、12月に RS ウィルスとロタウイルスによる感染性胃腸炎の園内への侵入があり、RS ウィルスとロタウイルスに関しては、大規模修繕等の工事中で 2 階での生活を余儀なくされており、隔離体制を構築するのに困難を極めました。職員の奮闘により、どちらも 1 名の児童が感染しただけで、他児童への拡大感染は防ぐことができました。大規模修繕等の工事の関係で、園舎の 2 階や特別養護老人ホームみぎわ園の地域交流室を借りて日中の養育場所としたり、1 階の工事中は観察室が使用できず、2 ヶ月間緊急入所を受けられない期間が存在したり、さらに、感染症対策期間中は、入所児の面会を制限した事で、家庭的に恵まれない児童の緊急一時保護や、入所児の家庭復帰促進などをその使命とする乳児院の運営の難しさ思い知らされた年度でした。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した原子力発電所事故の影響で、国や県から節電の要請を受け、当園でも積極的に節電への協力をして参りましたが、現場の状況を十分な理解をしていない方から静岡県に「エアコンも使わせない劣悪な環境で児童を養育している」という通報が入り、静岡県による立ち入り調査を受けましたが、そのような事実は確認されませんでした。

スプリンクラー設置を含む設備面の大規模修繕に関する計画については、夏場は猛暑に見舞われ、秋には、大型台風 15 号の直撃を受けましたが、工事への影響はありませんでした。しかし、既存設備が老朽化していて今後の使用に耐えられない状況が工事中に解り、追加工事の必要となりましたが、静

岡山からの指示で補助金の追加・変更申請が可能となり、無事に追加工事を含めた工事が完成し、平成 23 年 12 月 27 日に引渡を完了することができました。静岡県と富士市による完成検査も平成 24 年 1 月 31 日に無事終えることができました。

重要事項報告

(1) 感染症について

平成 23 年 7 月 13 日から 9 月 28 日にかけてヘルパンギーナ(急性ウイルス性咽頭炎)の園内発症があり、8 名の児童に感染が確認されました。感染初期に発熱や咽頭の痛みや腫れなどの症状から食欲不振になる症状がおこりますが、7 月 13 日に 1 名発症し、隔離等の対応を行い、完治したと診断されてから 2 週間以上経過した 8 月初旬に 5 名が感染、その児童達も完治した 20 日後に 1 名感染、さらに 9 月 28 日に 1 名が感染するという、3 ヶ月に渡る期間で、しかも完治してから 3 週間程度してから発症するという状態でしたので、長期にわたる感染症対策が必要でした。平成 23 年 12 月 1 日 RS ウィルスに 7 ヶ月の女兒が感染し、大規模修繕工事の 1 階工事期間中のため 2 階での生活を余儀なくされている時期でしたが、すぐに隔離を行い他児への感染は防ぐことができました。RS ウィルス感染症は例年ですと入院する児童がおりますが。今回は重症化することなく入院に至らずに済みました。又、RS ウィルスの感染対策中の平成 23 年 12 月 9 日に 5 ヶ月の女兒がロタウイルスによる感染性胃腸炎と診断されました。簡易診断キットに仄かに反応し、「擬陽性」ということでしたが、すぐに隔離を行ったところ、他児への感染拡大を防ぐことができました。感染症対策期間は RS ウィルスも含めて平成 24 年 1 月 20 日迄実施致しました。

(2) スプリンクラー設置及び大規模修繕について

平成 21 年度から設計監理を委託した、ゆたか建築設計事務所と、平成 23 年 6 月 10 日に施行業者に決定した、株式会社井上建設とともにスプリンクラー設置及び大規模修繕工事に関する詳細について検討を繰り返し、追加工事が発生しましたが、事故も無く無事に工事を完成させることができました。

又、国や静岡県・富士市に対して補助金の申請や、追加工事等に関する変更申請を行い、平成 24 年 1 月 31 日に完成検査を受け、完成報告書等の必要とされる資料を提出し、補助金も平成 24 年 3 月 31 日に交付され、同日業者への支払いも完了致しました。

①大規模修繕工事等に関する契約金額及び補助金申請額（内訳）（単位：円）

		大規模修繕	スプリンクラー	合計	備考
建設工事費	本契約	57,762,180	8,387,820	66,150,000	
	追加契約	4,985,850	1,046,400	6,032,250	
	契約合計	62,748,030	9,434,220	72,182,250	
設計業者	契約合計	2,920,850	439,150	3,360,000	H21・H22設計料 前払200万円支出済
	管理料のみ	1,182,250	177,750	1,360,000	
工事全体合計額		65,668,880	9,873,370	75,542,250	前払200万円含む
国・県補助金額		47,523,000	7,075,000	54,598,000	
市補助金額		15,841,000	2,358,000	18,199,000	
自己負担額		566,280	178,970	745,250	
補助金申請額		63,930,280	9,611,970	73,542,250	前払200万円含まず

②工事概要

○当初予定工事

- (1) プリンクラー設置工事（1階：全室、廊下・2階：廊下を除く各室に設置※トイレ、浴室等除く）
- (2) 園舎屋上の防水工事（屋上倉庫の園庭芝生への移動を含む）
- (3) 2階職員寮改装工事
 1. 洋室への改装（16畳 1部屋）
 2. 和室への改装（14畳 1部屋）
 3. 倉庫への改装（6畳 1部屋）※保存文書収納用倉庫
- (4) 1階診察室及び観察室の感染症対策強化工事（床暖房工事を含む）
- (5) 1歳児室の0歳児対応工事（床暖房化を含む）
- (6) 1階空調機能の強化工事（0歳児室・1歳児室・診察室・観察室・食堂等：サッシの取替を含む）

○追加工事

- (1) スプリンクラー用タンクの設置
- (2) 高架水槽の取替及び配管の新設
- (3) 園舎2階ファンコイル型空調機の取り換え（6部屋と食堂用）



スプリンクラー配管・ヘッド（機械室）



スプリンクラー用タンク



取換え後の高架水槽



設備取換え後の屋上高架水



防水工事後の屋上：手摺りも取換え



1階居室のサッシ取換え（面格子



屋上倉庫の芝生園庭への



2階洋室（約16畳）



2階洋室本棚



2階和室（約14畳）



取換え後の2階ファンコイル型

（3）静岡県による「不適切な環境による養育」に関する事情聴取について

平成23年3月11日に発生した原子力発電所事故の影響で、国や県から節電を要請する文書を受け、特別養護老人ホームや重度心身障がい児（者）施設は節電の対象から外されておりましたが、乳児院は節電の対象施設とされていたため、室内温度の設定は28度として、子ども達が起きている時間は冷房を切り、窓を開けて風通しを良くする。行水や、着替えをこまめにするなどの衣類による温度調節や、体温調節ができていない子どもには、個別に

保冷剤を使用する等の指示をして、当園でも積極的に節電への協力をして参りましたが、現場の状況を十分な理解をしていない方から静岡県に「エアコンも使わせない劣悪な環境で児童を養育している」という通報が入り、平成23年9月8日に静岡県にこども家庭課及び、富士健康福祉センター職員6名により、「被措置児童等虐待防止ガイドライン」に基づく、全職員への事情聴取や、関係資料の提出等の立ち入り調査を受けました。当園の空調機器は35年前に設置されたファンコイル型の集中管理であり、室内の温度設定もダイヤル式の急速・強・中・弱の切り替えスイッチのため、細かな温度設定ができなかったことも現実にはありましたが、職員は各部屋に設置してある温湿度計をこまめに見たり、子ども達の肌に触れるなど、器具のみに頼らない室温管理をするように指示をして、職員も対応をしていました。事情聴取の結果、空調機器が故障していた8月中旬は数日30度を超えた日もありましたが、7月・8月中の正午の平均室内温度は27度台という結果であり、劣悪な環境で養育している事実は認められませんでした。また、大規模修繕工事の計画の中に、子ども達が使用する部屋全てにセパレート式のエアコンの設置計画や、冬期、特に身体に弱い0歳児や病児が使用する部屋には床暖房設備の設置が当初から盛り込まれており、工事が完了した現在は稼働中ですので、空調機器の問題は改善されており、今後は一層良い環境での養育が可能となっています。

(4) 大雨による食堂前日除け破損について

平成24年2月23日(木)に降り続いた大雨により、園舎1階食堂前の日除けが、雨水の重みに耐えきれず支柱が破損してしまいました。大規模修繕工事の際に、台風15号の影響で破れ掛けていた日除けのシートを厚みのあるシートに取り替えましたが、シート上に予想以上の雨水が溜まった結果による破損であると思われます。平成23年度中には修理を行うことができませんでしたので、平成24年度中に修理若しくは、別の日除けの設置を行いたいと思います。



1階食堂前日除けの破損状況

施設整備等

昭和 50 年度の事業で建設され、築 35 年を経過した園舎はさすがに老朽化が進み、誘導灯の修理や、園舎北側のフェンスや、キュービクルフェンス、2 階食堂の消毒保管庫及び、園庭の芝生を管理するための芝刈り機等の取り換えも実施致しました。また、大規模修繕工事により児童居室の感染症対策を実施しましたが、手洗いと同時にうがいができるように配慮した手洗い設備への取替なども実施致しました。平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災時に起きた長時間の停電を教訓に、停電時でも園舎の機能を少しでも使用できるように、高架水槽への送水を可能とする非常電源への切り替え装置の設置と、新規に発電機を 2 台購入致しました。

(1) 固定資産計上取得物品等

① フラッグポール	693,000 円
② ワイヤレスアンプ	129,938 円
③ ホンダ芝刈り機	200,000 円
④ ホンダ発電機	283,500 円
⑤ 自家発電切替装置(ヤマ発電機込) (社会的養護入所者環境改善事業補助金)	798,000 円
⑥ 食器消毒保管庫	249,480 円
⑦ 無呼吸モニター 3 台 (社会的養護入所者環境改善事業補助金)	456,750 円
⑧ 手指消毒器 2 台	808,500 円



フラッグポール



ホンダ芝刈り機



2階 食器消毒保管庫



手指消毒器

(2) 固定資産廃棄物品等

- | | |
|-----------|------------|
| ① 芝刈り機 1 | 1 円 (残存価格) |
| ② 芝刈り機 2 | 1 円 (残存価格) |
| ③ 芝生クリーナー | 1 円 (残存価格) |

(3) その他の取得物品

- | | |
|-----------------|------|
| ① 会議用テーブル | 7 脚 |
| ② 会議用椅子 | 20 脚 |
| ③ PC 用机 | 1 台 |
| ④ PC 用椅子 | 5 脚 |
| ⑤ 書庫 | 5 台 |
| ⑥ PC 環境整備用無停電装置 | 1 式 |
| ⑦ 乳母車 | 2 台 |
| ⑧ 園児食事用椅子 | 20 脚 |

(4) 修繕工事等

- | | |
|----------------------|-----------|
| ① 道路舗装工事及び側溝清掃(法人案分) | 105,000 円 |
| ② 玄関セキュリティー補修 | 46,095 円 |
| ③ セキュリティー取替工事 | 127,837 円 |
| ④ 空調冷却塔交換補修工事 | 121,800 円 |
| ⑤ 2階洋室本棚落下防止工事 | 84,000 円 |

⑥ 2階プレイルームサッシ取替工事	98,500 円
⑦ 1階トイレタイル補修工事	39,900 円
⑧ 1階浴室タイル補修工事	50,400 円
⑨ 1階リネン室樋工事	63,000 円
⑩ 1階ナースプール腰壁取替工事	105,000 円
⑪ 1階乳児室手摺設置工事	231,000 円
⑫ 1階プレイルーム棚取替工事	472,500 円
⑬ 東階段手摺設置工事	68,250 円
⑭ キュウビクルフェンス取替工事	367,500 円
⑮ キュウビクルフェンス基礎工事	220,500 円
⑯ 柱状高圧負荷開閉器取替工事(施設案分)	158,813 円
⑰ 自動ドア補修工事	262,500 円
⑱ 事務所電気配線及びコンセント補修工事	79,800 円
⑳ 居室テレビブースター・端子等取替工事(施設機能強化事業)	169,680 円
⑳ 非常灯・誘導灯取替工事	79,800 円



ヤマハ発電機 200V



ホンダ発電機



発電機による
非常用電源使用揚水システム



園舎北側及び
キュービクルフェンス取換

特別養護老人ホーム みぎわ園

事業概要報告

3.11 東日本大震災に端を発し、防災危機管理体制の確立、大規模災害に対して施設管理の検討に奔走した 1 年でもありました。節電対策の中でどう乗り越えるか空調温度の設定管理、遮光シートでの室温調整等、ただこれらにも世間の目は厳しく様々なクレームを頂き、節電努力の対価にしては、思いの差を感じた 1 年でもありました。各部門事業成果として、ショートステイ業務稼働率（90.8%、平均 18 名/日）の向上、特養部門について

も、入退所の多くの出入りの中で待機日数の減少に努力し、又多くのターミナルケア(看取り介護)を実践し、職員一人ひとりのケアスキルの達成感を得ることが出来ました。この年、「看護・介護職員によるケア連携協働」があり、職員の医的行為「かく痰吸引・胃瘻経管栄養処置」等の専門技術のカリキュラムを実施し、「認定特定行為業務従事者」として年度末、県知事からの同職務への認定書を頂いております。又今年度は「QOL 委員会」を発足し、園全体でのケアスキルの向上に努め、「生活の質」「命の質」を磨き上げて来ています。

9 月からは、24 年度 4 月開設を目標に地域包括支援センターの準備に入り、11 月には「吉原西部地域包括支援センター」として吉原・今泉・伝法地域の日常生活圏域を支援するとして正式認可を受けました。平成 27 年を基点とする「地域包括ケアシステム」も、法人として隣人愛の精神を基本として地域福祉を担うべく期待するところが大有りあります。



敬老会：理事長と職員手作りお祝い会



吉原西部地域包括支援センター事務所

重要事項報告

- 1 「観察と記録」のフォローアップ研修を実施し、『観察なくして援助なし』の心構えをモットーに記録の充実が図られました。
- 2 ターミナルケアについて、今年度 13 名の看取りを完結し「その人らしい終焉と家族への安心」を提供し得ました。
- 3 キャリアパス要件を合わせた人事給与規定の見直しは、役付職位の号俸への整合で終始し、引き続き規定見直しを検討して行きます。

- 4 平成 25 年目途での「新会計基準」導入に向け、介護保健施設の 24 年度予算として「指導指針方式」で実施を進めています。
- 5 大規模修繕等では、1 F 南ユニットの浴室改修と機械浴装置を配備し、引き続きエネルギー管理、給湯システム更新は継続し検討するとしました。
- 6 法人内通信費用の無料化、電話通信システムの構築も平成 24 年度に引き続き継続検討としています。



改修後：1 南ユニット浴室と機械浴装置

実施報告

部 門：特養管理部門

1. 職員一人ひとりのスキルアップを図るため、QOL（生活の質）向上委員会の新たな設置を図る。

ケア向上、リスクマネジメント、レクリエーションと大きく3つの委員会で構成し、入所者の「生活の質」、強いては「命の質」を見直すべくスタートし、「走りながら考える」とした活動状況でした。多くの助言・批判を頂き、反省すべき点が多くあり、各委員からは「大変だったけど、知恵や知識、やる気が得られ、やって良かった」との意識の高揚と共に「達成感」を感じることが出来、全体の活動内容の共有など「その人らしさと尊厳を大切にする」とした QOL 委員会の進歩に期待しています。

2. 職員間での情報の共有する仕組みを整備する。

情報共有の手段として、口頭、書面による二重報告を実施し、ユニット連絡会を発足、情報の共有と主任会議での意見収集と問題点の共有化、「報告・連絡・相談」を意識し実施しています。

3. リスクマネジメントの把握と徹底のため「気づき」による事故防止と再発防止に努める。

QOL 委員会のリスクマネジメントの取り組みの中で、インシデント及びアクシデントレポート化を図って、「あって当たり前」とした感覚から問題意識へと変わりつつあります。事後の説明責任と家族との情報共有、心から安心して生活し、幸せを感じ得るケアの充実に努力しています。

4. ターミナルケアでの「命のメッセージ」を感受し、人生の終焉が迎えられるようなケアの充実と家族の支えとなる支援を行う。

職員一人ひとりに、優しさと思いやりの中で、一生懸命最後まで寄り添った結果、担当職員以外からも、息途絶えた時「〇〇さん、本当にお疲れさまでした。ありがとうございます。」と、涙する姿勢には、温かい充実感、心からの感謝の言葉を頂きながら、介護に対する達成感を得ることができた一年でもありました。



春の園遊会の様子（みどり園園庭）



1Fユニット：

安藤花子様百歳のお祝い

部 門：看護管理部門

1. 看護介護のケア連携の伝達講習会を実施

看護・介護ケア連携、吸引と胃瘻に関する伝達講習会を実施し、担当側としても学ぶことが多かった講習会でした。

2. 医師への適切な報告をし、処置を行う

「観察」「判断」「統合」「決断」「実行」という能力であると感じ、自己啓発してきました。

3. 全職員が感染対策を周知徹底できるよう伝達講習会を実施

インフルエンザ等の発症を防止することができ、各部署に日常の標準予防策（スタンダードプリコーション）の考え方・重要性を周知徹底、防疫体制の強化に努めました。

4. ターミナルケアではその人らしさを尊重、苦痛を緩和、ご家族との連携を充実する

今年度は13名の方を看取りました。看護・介護と連携、協働を図る中で、「その人らしさを尊重した」ターミナルケアに少しでも近づけたと思っています。

部 門：1F北ユニット（するが・さがみ）

ターミナルケアの実践経験の下、家族の立場に立っていっそうレベルの高いターミナルケアを目指し、日々の生活に変化をもたせるためのレク行事、観察と記録の研修から受けた介護記録のレベルアップを図りました。

部 門：1F南ユニット（いせ・みかわ）

利用者様一人ひとりに声掛けし、日々の表情でご利用者の状態を把握し職員同士しっかり伝達を実施し、ご家族の面会時に状態を説明し、ご家族にも安心して頂けるよう心掛けました。



喜寿・米寿の方々の記念撮影



職員手作りクリスマス会アート

部 門：2Fユニット（くすのき・もくせい）

常に入所者の心に寄り添い思いやりの心を持ってゆとりのある会話と傾聴を大切に個々の笑顔に出会えるように介護サービスの向上に努め、状態の把握をしっかりと観察し早期発見と安全安心なケアに努めることができました。

部門：3Fユニット（あまぎ・あしたか）

施設の生活を「家」としてゆとりのある生活、個々の残存の能力を見つけADL向上と、入所者の自己決定を尊重した個別のケアを実践しました。

部門：ショートステイみぎわ園

「もう一つの我が家」目標に、元気で楽しく過ごして頂く事を目指し、ご家族・居宅ケアマネージャーとの連携を密にして信頼を築き利用率UPを図り、相手の立場に立った対応、利用者の傍に居る事を大切に笑顔で楽しく過ごせる場の提供が出来ました。

部門：デイサービスセンターみぎわ園

『地域密着型施設』の特徴を活かした活動を下に、地域で少しでも長くその地域で生活できるように、一人ひとりへ「心の言葉に耳を傾ける」をテーマにかけがいの無い存在になるようなサービスを目指しました。

1. 稼働率 80.8%平均利用人数 9.7 名の実績



レクリエーションの様子（初詣・おやつ作り・ゲーム等）



季節行事の様子（節分祭・福祉展など）

部門：ふようデイサービスセンター

ご利用者個々の意向に耳を傾け「今日一日楽しかった」をテーマに、ご利用者のサイドに立ったサービスを実践し、利用継続度・満足度を目指し、職

員が一丸となり取り組みを行ってきました。クラブ活動の数も増加し、選択
ができるレクリエーションを実施してサービス内容の充実を図れたと考
えています。

1 稼働率 86.3% 平均利用人数 30.2 名



野外歩行訓練の様子（中央公園へのバラ見学・毘沙門さんへの初詣）



福祉展見学



レクリエーションの様子



余暇時間の様子

部 門：ふよう居宅支援事業所

ご利用者の意思を尊重し、その有する能力に応じた、住み慣れた地域で自立した日常生活を営む事が出来るよう配慮した「個性ある暮らし」をテーマにサポートしました。事業所員として4.6人体制で活動してまいりました。地域からの相談には全てに耳を傾け親身に対応説明できる姿勢を取る事が出来ました。

- 1 主任介護支援専門員の配置と特定事業所加算Ⅱの取得
- 2 富士市吉原西部包括支援センターとの連携と困難事例者の相談に応じると予想され、法人介護保険部門との連携も密にし、実践していきます。

部 門：在宅介護支援センターみぎわ園（高齢者地域支援窓口）

在宅の要援護高齢者もしくは要援護、その家族に対し、在宅介護等の相談に応じ、住み慣れた地域で安心して自立した生活を継続できるよう支援することを目的として、地域活動展開し、今年度は、初の試みである「転ばん教室」を全12回コースで行う事が出来ました。



転ばん教室様子

資料 1 : 施設利用者の状況 平成 24 年 3 月 (3 月 1 日～末日)

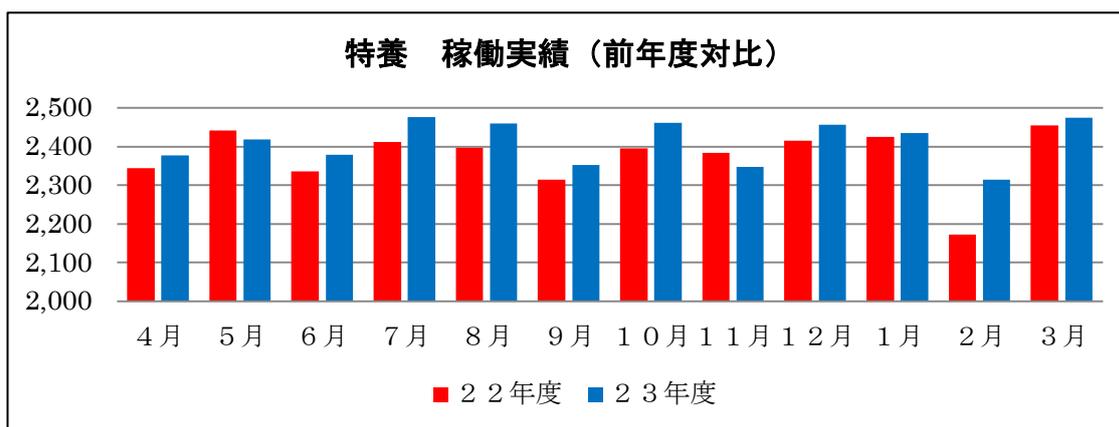
	平均年齢		平均介護度		要支援 1		要支援 2		要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		3月利用者数
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
	計		計		計		計		計		計		計		計		計		
特養	80.4	86.8	3.55	3.85					4	3	2	8	13	4	21	5	20	80	
	85.2		3.8						4		5		21		25		25		
ショート	83.2	86.4	2.97	2.77		2	3	14	3	32	22	90	9	146	31	163	9	71	595
	85.8		2.8		2		17		35		112		155		194		80		
みぎわデイ	80.2	80.5	3.17	3.38							16	52	37	15	38	31	20	209	
	80.4		3.3								68		52		69		20		
ふようデイ	83.3	85.8	2.18	2.02			23	43	50	108		182	72	85	13	32	4	8	620
	85.1		2.1				66		158		182		157		45		12		
ふよう居宅	81.3	83.3	2.16	2.04	1	2	2	8	11	30	12	19	13	15	5	7		7	132
	82.6		2.1		3		10		41		3		28		12		7		

※ 特養は実人員・ショートステイ以下は居宅部門は延べ人員で表示

資料 2 各事業稼働率集計表

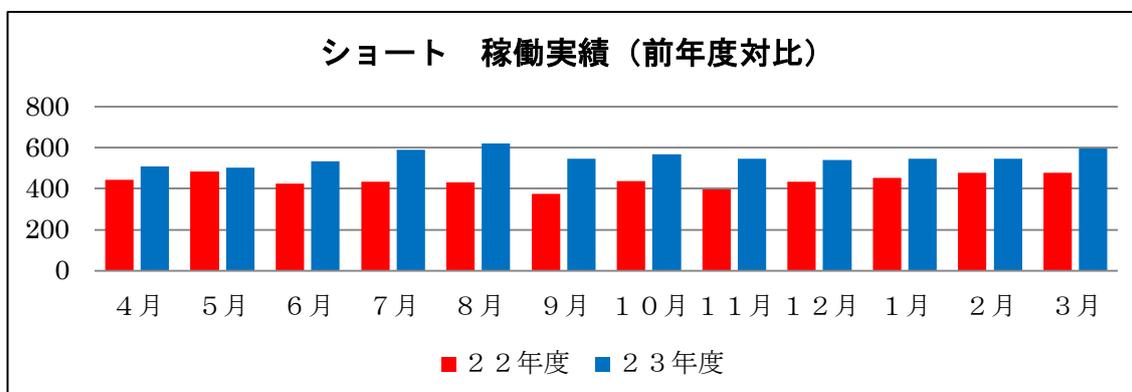
平成 23 年度 特別養護老人ホームみぎわ園事業実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
22年度	2,344	2,442	2,335	2,411	2,396	2,314	2,395	2,384	2,415	2,424	2,173	2,454	28,487
23年度	2,377	2,418	2,379	2,476	2,460	2,353	2,461	2,348	2,456	2,434	2,315	2,475	28,952
23年度稼働率	99.0%	97.5%	99.1%	99.8%	99.2%	98.0%	99.2%	97.8%	99.0%	98.1%	99.8%	99.8%	98.9%



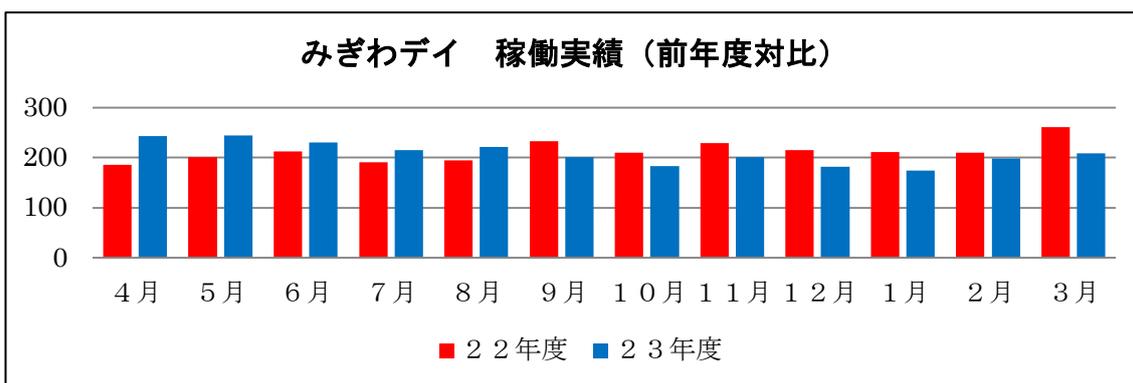
平成 23 年度 ショートステイみぎわ園事業実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
22年度	443	483	423	434	431	374	437	398	435	452	478	477	5,265
23年度	510	501	532	589	620	546	569	547	541	546	547	595	6,643
22-23	67	18	109	155	189	172	132	149	106	94	69	118	1,378
23年度稼働率	85%	81%	89%	95%	100%	91%	92%	91%	87%	88%	94%	96%	90.8%



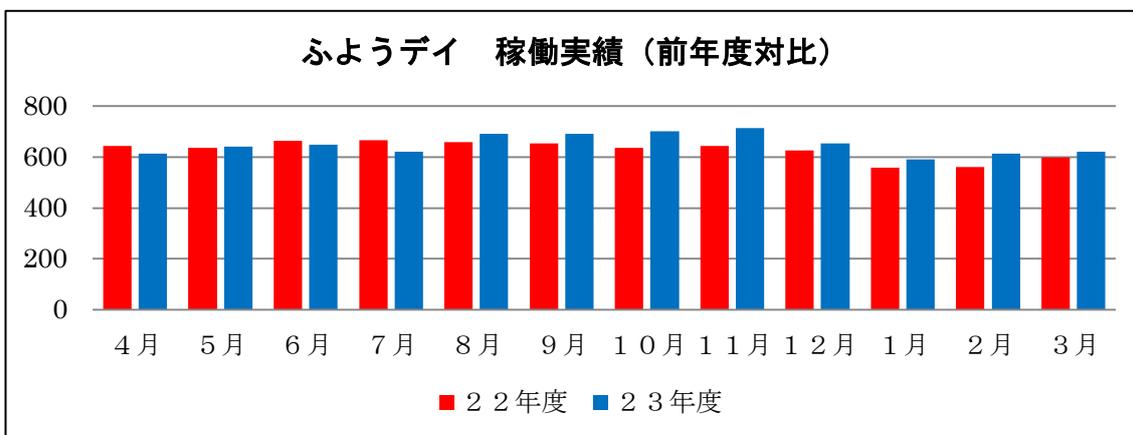
平成 23 年度 みぎわ園デイサービスセンター事業実績（営業日 21.6 日平均値）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
22 年度	185	201	212	191	194	233	210	229	215	211	210	261	2,552
23 年度	243	244	230	215	221	201	183	201	182	174	198	209	2,501
22-23	58	43	18	24	27	-32	-27	-28	-33	-37	-12	-52	-51
23 年度稼働率	94%	94%	89%	83%	85%	78%	71%	78%	70%	67%	76%	81%	80.5%



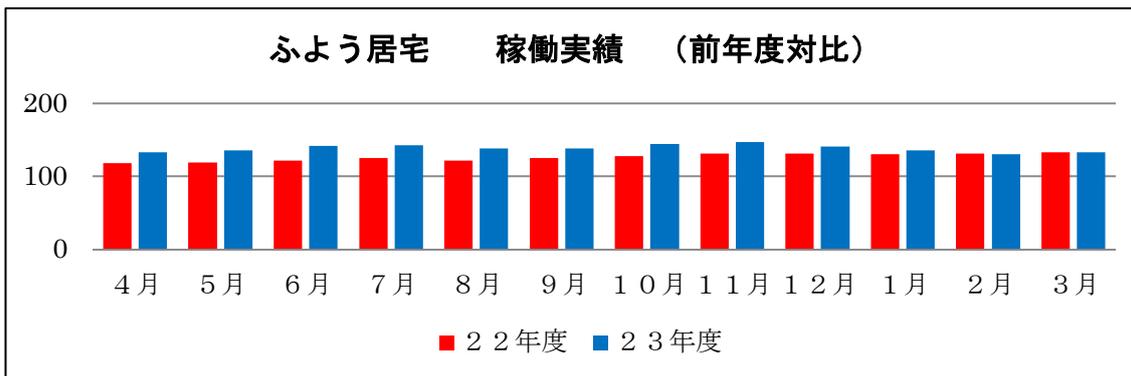
平成 23 年度 ふようデイサービスセンター事業実績（営業日 21.6 日平均値）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
22 年度	644	635	664	667	658	654	635	642	625	557	560	597	7,538
23 年度	614	640	649	621	691	691	701	713	654	590	612	621	7,797
22-23	-30	5	-15	-46	33	37	66	71	29	33	52	24	259
23 年度稼働率	81%	85%	86%	82%	91%	91%	93%	94%	87%	78%	81%	82%	86.0%



平成 23 年度 ふよう居宅支援事業所事業実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
22 年度	118	119	122	125	122	125	128	131	131	130	131	133	1,515
23 年度	133	136	142	143	138	138	144	147	141	136	130	133	1,661
22-23	15	17	20	18	16	13	16	16	10	6	-1	0	146
ケアマネあたり担当件数	28.9	29.6	30.8	31.1	30.0	30.0	31.3	31.9	30.6	29.5	28.2	28.9	30.0



資料 3 平成 23 年度 特養入退所状況

項目	入所者	退所者	(内)看取り
自宅	17		
老健	7		
病院	3	4	
死亡		24	13
合計	27	28	13

資料 4 平成 23 年度 みぎわ園面会者数実績

4月	464	5月	456	6月	504	7月	488
8月	552	9月	430	10月	399	11月	429
12月	589	1月	567	2月	376	3月	519

23 年度面会者総数 5,773 名 1 日平均 15.8 名

資料5 平成23年度リスクマネージメント集計(インシデント・アクシデント報告)

場所別件数

場所	件数
居室	108
パブリック	49
ステーション	18
食堂	14
トイレ	27
浴室	11
屋外	6
医務室	2
その他	1

236

事故別件数

内容	件数
転倒	77
転落	53
誤嚥	1
異食・誤飲	9
皮膚剥離	26
誤薬	8
配薬ミス	31
無断外出	5
利用者トラブル	1
その他	25

骨折事故 (9)

月別件数

月	件数
4月	18
5月	17
6月	24
7月	15
8月	19
9月	10
10月	22
11月	25
12月	22
1月	19
2月	22
3月	23

曜日別件数

日	件数
月	25
火	38
水	40
木	35
金	22
土	36
日	40

236

リスク種別件数

種別	件数
ヒヤリハット	128
事故	108
苦情	0

236

介護度別件数

介護度	件数
要介護1	17
要介護2	36
要介護3	93
要介護4	59
要介護5	41
要支援1	0
要支援2	1

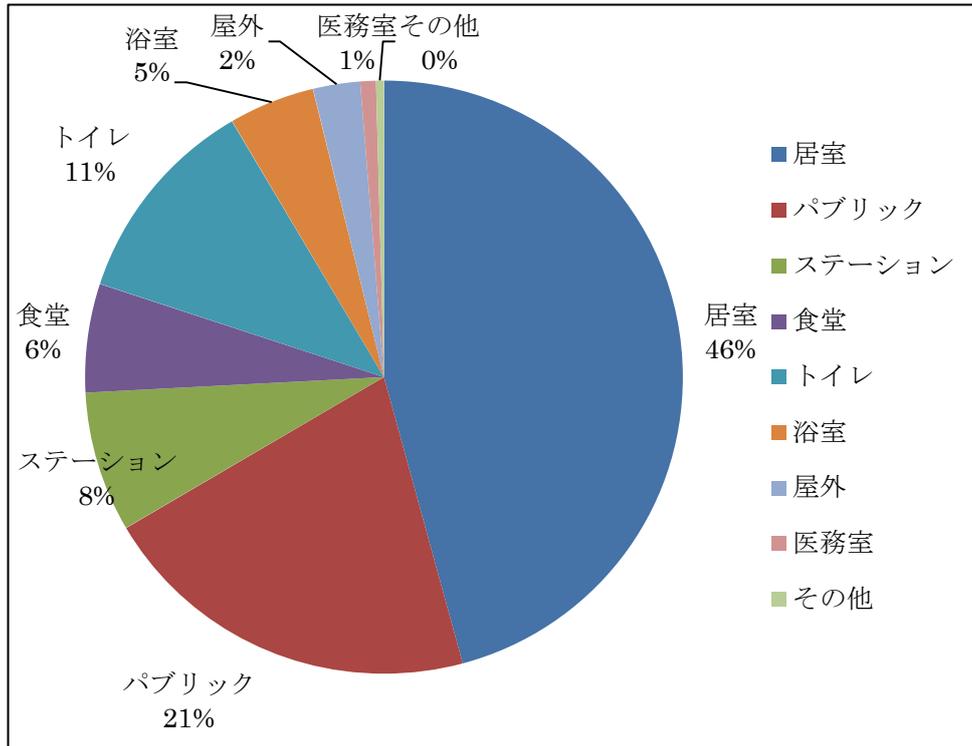
男女別件数

男/女	件数
男性	55
女性	192

部署	件数
1F南	32
1F北	35
2F	79
3F	35
SS	43
デイ	4
医務	8

236

場所別件数（236件）



事故別件数（236件）

